

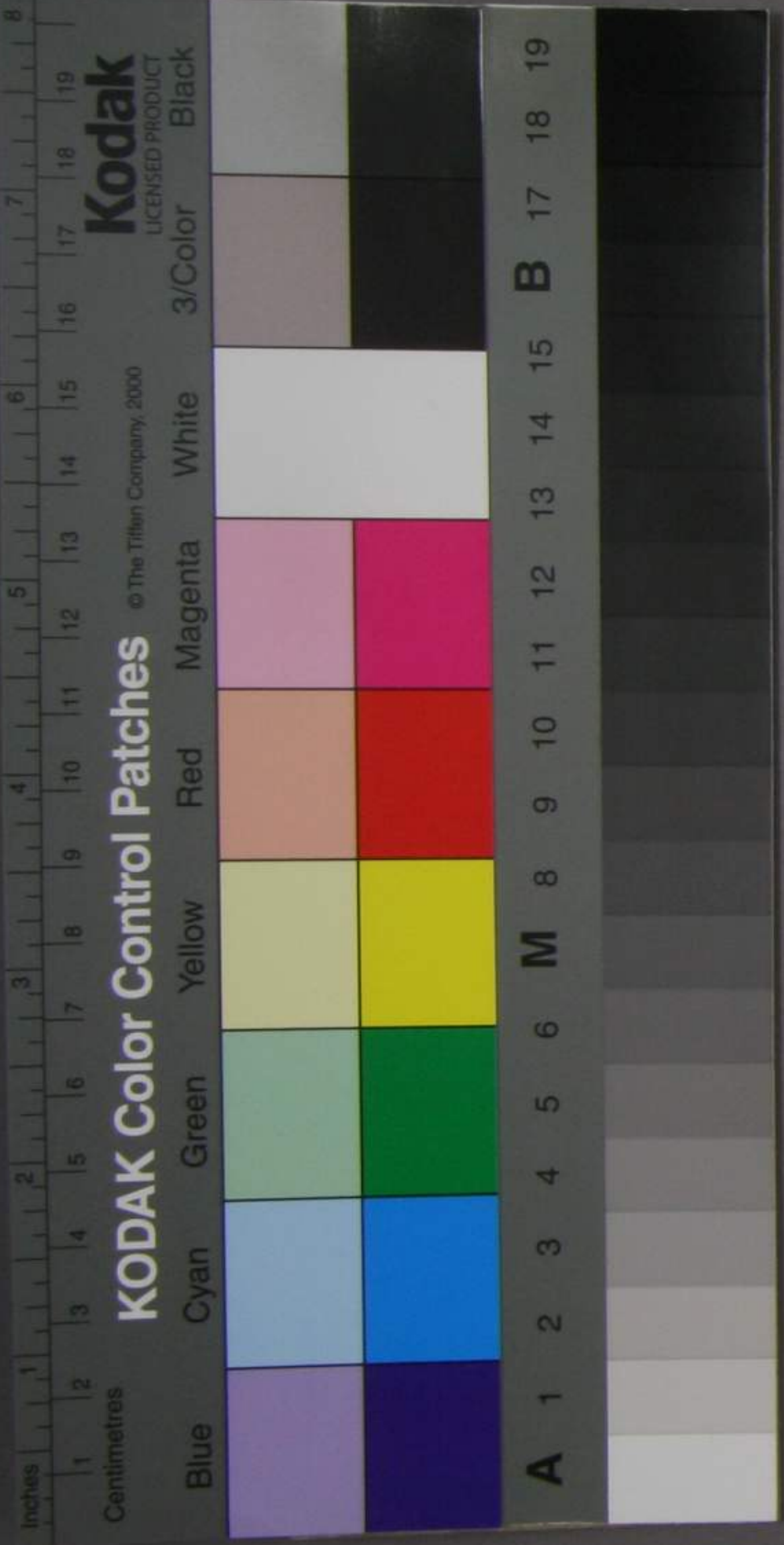
414
A 1548
20

大正十一年四月
限正
大

本年作業費出納計算ノ方法ハ九月六日公達
ニ基キ左ノ概則ニ准依シ精理スルトス
一 奥業費ハ成規ニ従フ
一 營業費ハ作業費受拂例則ニ基キ左ノ
方法ニ従ヒ整理スヘシ

○原額査定法

該費ハ九月六日達文但書ニ據リ本年
豫算申牒ノ額ヲ幾分減スヘキ
筈ナルヲ以テ主務該省ノ申牒ニ因



リ減額スルトス若シ主務ノ省ニ於
テ減スヘキノ目途ナク事由相當
ノモノハ故ラニ之レヲ減セス

○原額交付法

原額渡方ハ每一ヶ月分ツ、交付スルヲ
本旨トスルト虽モ事業ノ模様ニ因リ
二三ヶ月分ヲ繰上ケ交付スルトアル
ヘシ如此ハ主務ノ請求ニ從ヒ其事
由ヲ詳悉シテ臨時ノ商議ニ決ス

○益金納付法

収入金ハ素ヨリ成規ノ如ク運轉ヲ

許シ歳尾ニ於テ收支差引残余ノ
益金ハ納付為サシム尤モ月々納付
スルハ主務ノ便宜ニ從フ

○造幣寮ノ如キハ収入ノ格別多數ナ
ルヲ以テ過日同寮ニ回答ノ如クス

○富岡製絲場ハ従前準備金ヨリ資本
貸出アリ故ニ本年豫算表出ノ通
出納スヘシ

○本年ハ且例則ヲ頒布セラレ既ニ半年
ヲ經過シタル上ハ經費モ是迄ノ体裁ヲ以

渡済且勘定仕上ホモ追々遅引ニ歳入出豫
算表モ既ニ本省へ上呈ヲ經シナレハ此上
大体ノ方法ヲ變更スルハ然ルヘカラス故ニ
例則ニ基キ前數項ノ如クス

本年ハ作業費規程創始ノ際タルヲ以テ前文ノ如ク概定スルト
雖モ該順序タル永遠ニ施行スヘキニアラサルヲ以テ明年以降
其方法ヲ改新セサルヘカラス其改正ノ処法タル枝葉細目ニ至テハ數
種アリト雖氏概シテ其大体ニ取ルヘキモノヲ舉レハ二法ノ外ニ出テス則
チ第一法ハ渾テ收入ヲ以テ辨給スルヲ本旨トス第二法ハ資本ヲ
貸與シテ營業セシムルヲ本旨トス不足アラ各之ヲ補助シ益アレ
ハ之レヲ收入ス

第一法

事業ハ然テ相當ノ資本金ヲ準備ヨリ貸與シ
不足アラハ之ヲ官給シ益金ハ之ヲ收入セシム

○眞業費

本則 本年九月六日
令達ノ規程ノ通仕拂切り精算ヲ立ル
トス

○營業費

營業資本ヲ貸与シ而シテ周歲收支ヲ計
較シ不足アレハ歲出益金アレハ歲入ニ編入
ス而シテ資本運轉ノ實況ハ毎月報告
ヲ要ス

○營業費全部ノ實況ハ別ニ副表ヲ製シ豫
算決算トモ公告スヘシ

○每歲其事業ニ随ヒ實況ヲ詳悉シ豫算帳ヲ申牒為サシムルハ通常經費ニ異ル
トナシ

○造幣紙幣ノ工事ハ官之レヲ為スヘキモノニシテ人民ニ委スヘカラサルモノナレハ作業費ノ部分ヲ除キ更メテ通常經費ニ編入ス

第二法

事業ハ渾テ其收入ヲ以テ之レヲ辦給シ不足アラハ之レヲ官助シ收支トモニ常用部ニ於テス

○真業費

支用ノ制限第一法ニ同シ

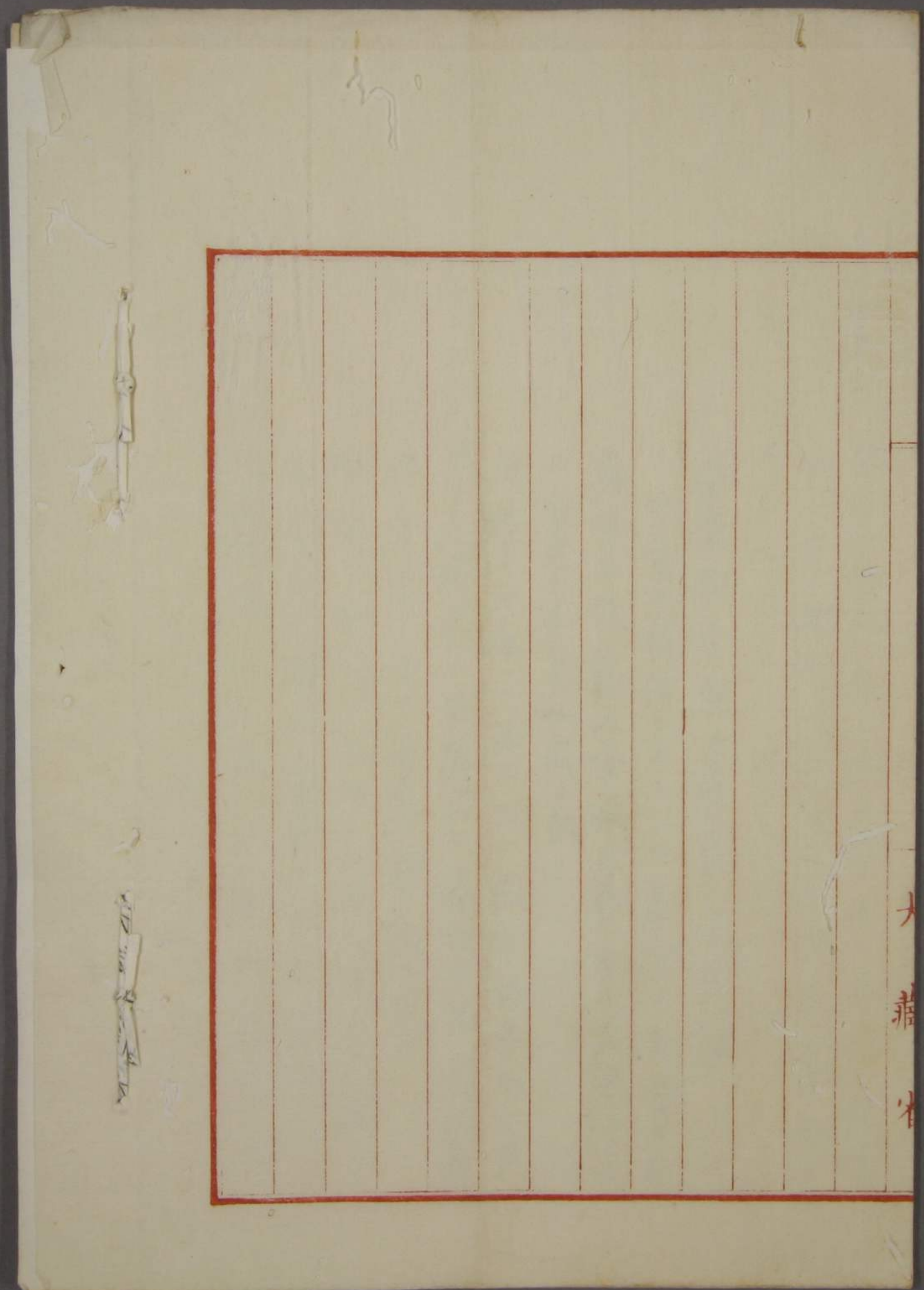
○營業費

收支比較シテ不足アラハ歲出ニ編入シ利益金ハ歲入ニ編入ス支用ノ制限ハ本則ノ通り

○全部ノ實況ヲ示サシカ為メ副表ヲ製シテ會計表ヘ付スルハ第一法ノ例ニ同シ

○每歲豫算ヲ申牒為サシムル手續及ヒ造幣紙幣ノ工事ヲ省キ之ヲ通常經費中ニ更ムルホモ亦第一法ニ同シ

○歲首ニ於テ收入金無之或ハ收入金些少ニシテ營業ニ障碍アルモノハ適實ノ金額ヲ准備金中ヨリ繰替貸与スルヲ得ヘシ



大
清
本